



原語と品

原語が立ち上がる。
それでも、どの言葉で立つかを選んでいる。

反応は、言葉より先に起きている。
そのときすでに、内側にはひとつの音がある。

外に出る前に、
それをどう扱うかだけが残される。

品は、整って見えることではない。

静かであること、
穏やかであること、
丁寧な言葉を使うこと。

それらは、結果として現れることはあっても、
それ自体が品ではない。

内側の動きを消すことで得られる静けさは、
均衡ではなく、抑制に近い。

削がれた状態は、
整っているようであり、
支えを持たない。

最初に立ち上がるものは、選ばれていない。

感情が触れた瞬間、
言葉はすでに発生している。

それは、誰かのためでも、
自分のためでもない。

ただ、反応として現れる。

この段階では、
まだ何も選ばれていない。

原語がある。

その事実は、変わらない。

そのうえで、
外に出す言葉は選ばれる。

反応と選択は、同時に存在している。

どちらかを消すことで整えるのではなく、
両方を保ったまま立つ。

原語を持たないことは、
安定ではない。

反応が立ち上がらない状態は、
均質だが、輪郭を持たない。

原語があることで、
選択が発生する。

その反復が、
外に現れる密度を変えていく。

原語は、消えない。

それでも、
どの言葉で立つかは、選ばれている。

その選択だけが、
外に残る。

A series of blue diamonds, each set in a gold-colored bezel, are arranged in a diagonal line from the bottom left towards the top right. The diamonds are faceted and catch the light, creating bright highlights and deep shadows. The background is a solid, deep black, which makes the blue color of the diamonds stand out. The focus is sharp on the diamonds in the middle of the line, while those at the beginning and end are slightly blurred.

内側では、すでに起きている。

外に出るのは、
選ばれた後の静かな形だけだ。

Edition — 存在の芯
別景：原語と品

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026